

3.3 自然的条件の現況の把握

初期的評価を前提とした影響想定海域の自然条件の現状把握項目を表-3.2 に示す。

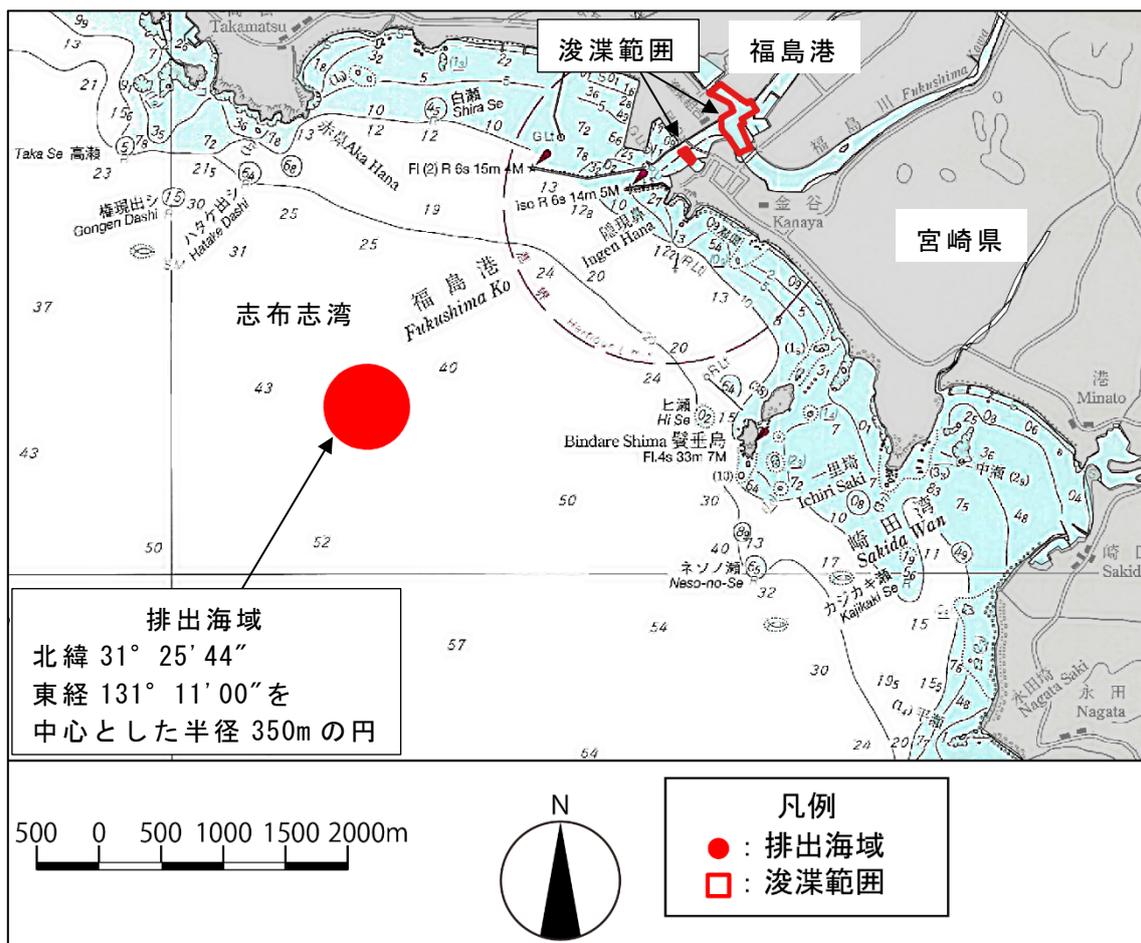
表-3.2 自然的条件の現況（初期的評価）

項目	現状	把握の方法
水深	排出海域 約 50m	図-3.2 より
流況	代表流速 0.144m/s	図-3.3(1)～(2)より

(1) 水深

当該排出海域周辺の海底地形を図-3.2 に示す。

当該排出海域は福島港から南西に約 2.8km 離れた地点に位置している。志布志湾の北東部に位置しており、一般水底土砂の排出海域及びその周辺海域の水深は約 50m である。



出典)「海図 W185」(海上保安庁、2003 年)より作成

図-3.2 当該排出海域周辺の海底地形

(2) 流況

志布志湾は太平洋に面しており、井内（1981）^{※1}は、「大隅海峡北東方の志布志湾とその周辺の海底地形は比較的平坦であるが、その断面には水深10・40・60・80・100及び150mのところに傾斜変換点が認められる」と報告している。また、志布志湾は「湾口部が広いために沖を流れる黒潮等の海流の影響が湾内の流況にみられる」（村上、1998）^{※2}とされている。

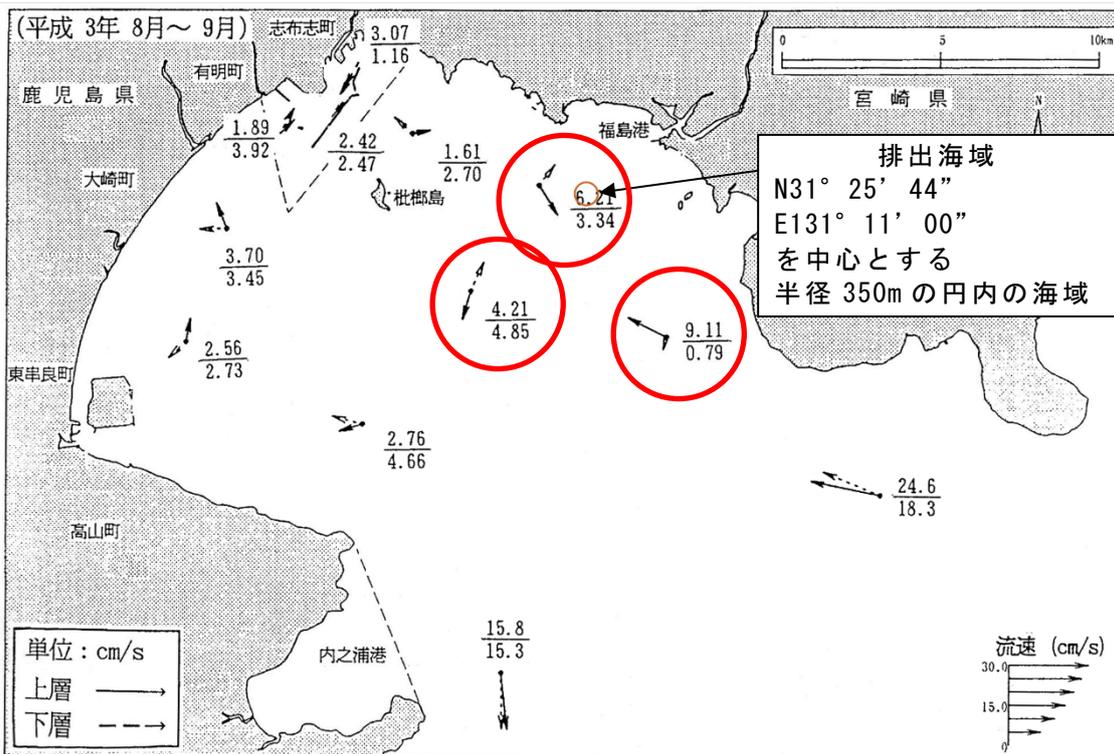
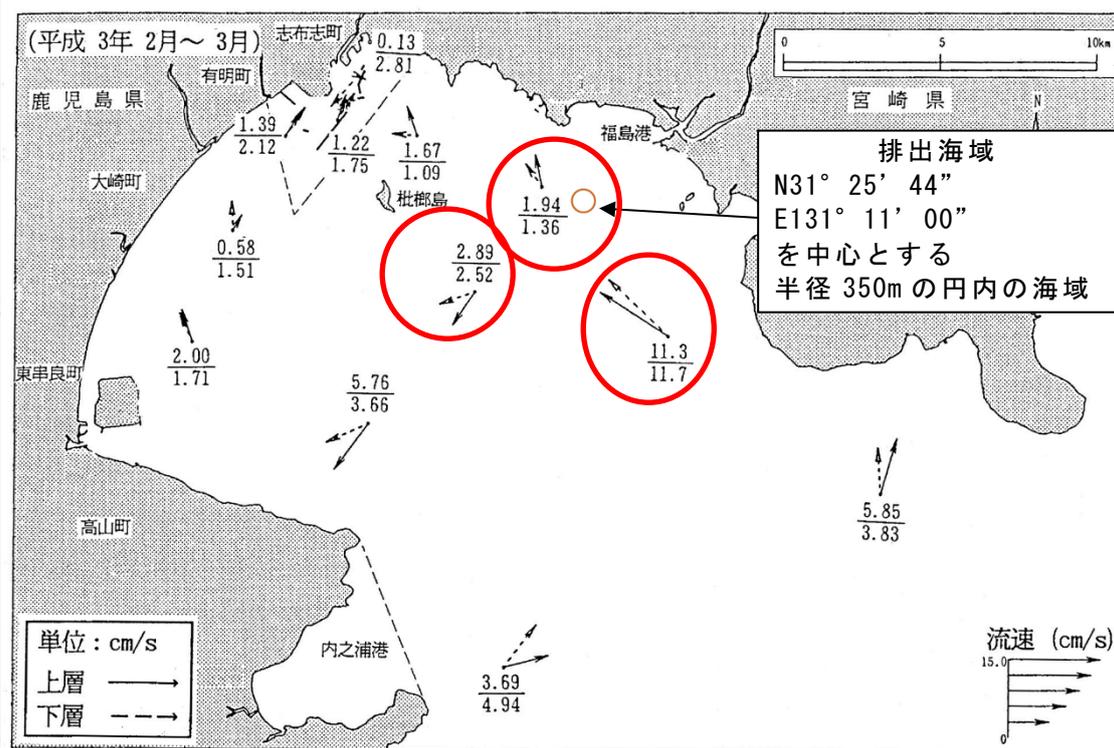
※1. 「大隅海峡及び周辺海域の堆積物と堆積史—大隅海峡の発達史と関連して—」（井内、地質調査所月報、第32巻 第12号、p.693-716、1981）

※2. 「閉鎖性内湾域の海水浄化に係わる水理・水質環境に関する研究」（村上、港湾技研資料、運輸省港湾技術研究所 No.900、1998）

志布志湾の夏季及び冬季における平均大潮期流経図^{※3}を図-3.3(1)～(2)に示す。

排出海域近傍の調査地点（図-3.3(1)～(2)において○で示した排出海域を囲む3地点）より、排水海域の流速として、過小評価にならないように最も流速の大きい0.144m/s（14.4cm/s）を採用した。

※3. 「志布志港港湾計画資料（その2）—改訂—」（志布志港港管理者、平成5年8月）

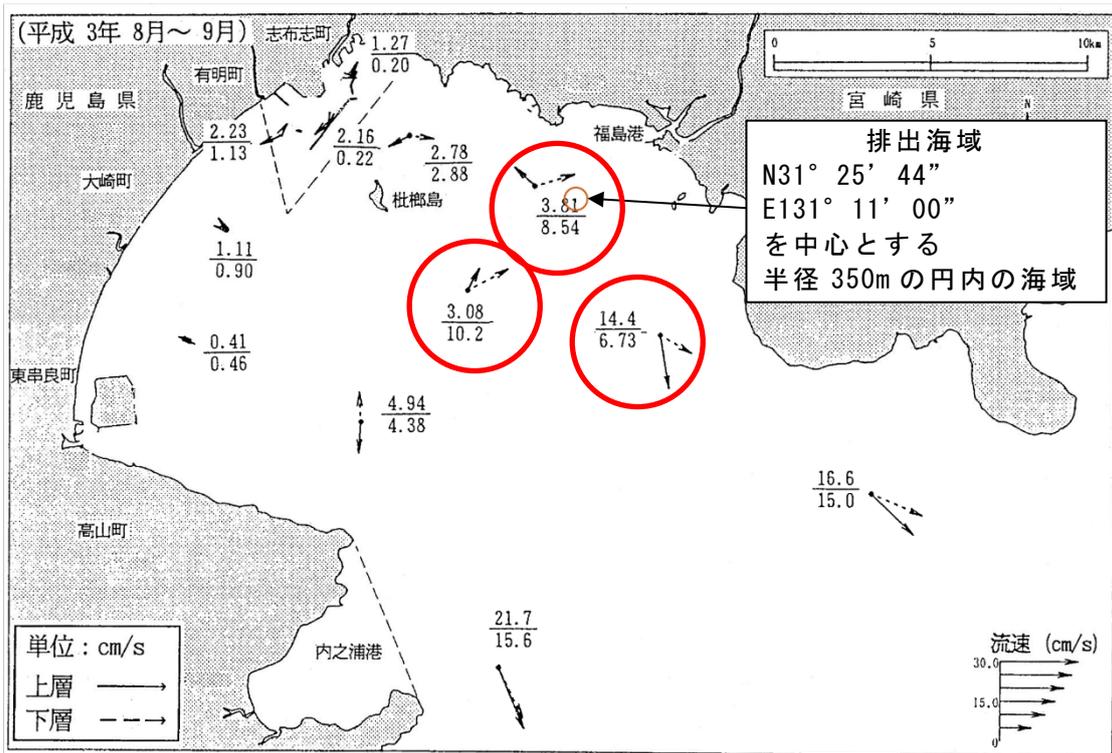
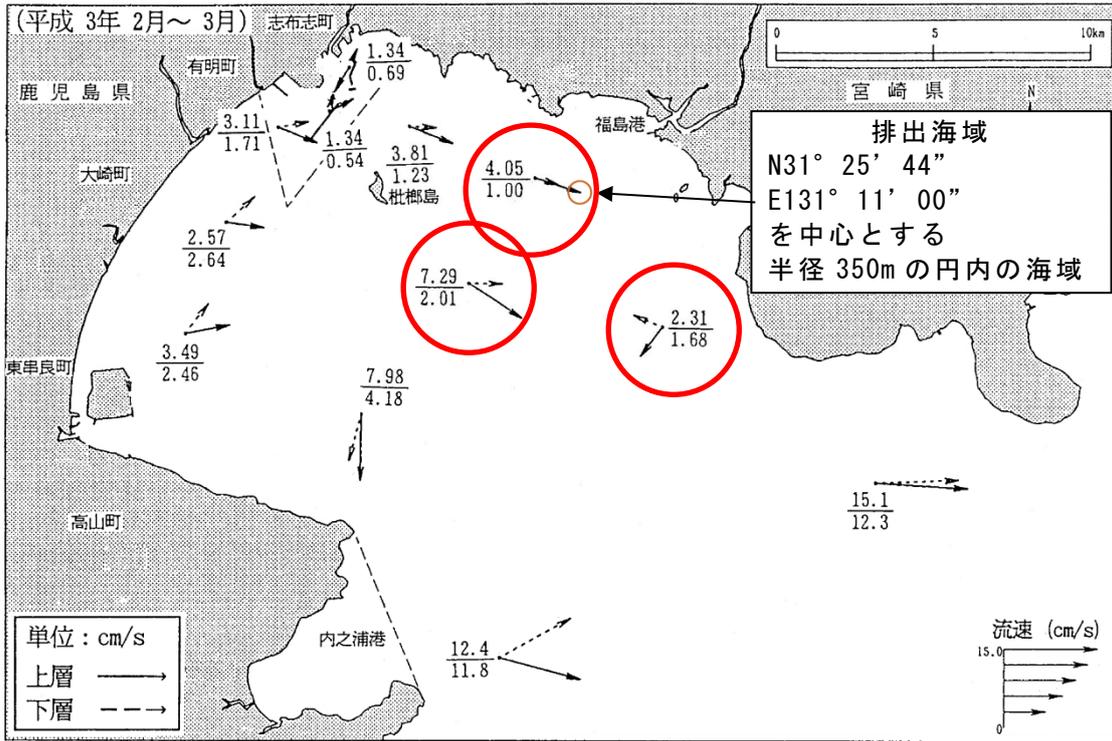


注) 矢印は流向、数値上段は上層、下段は下層の流速を示す。

○は調査結果を抽出した地点と流速を示す。

出典) 「志布志港港湾計画資料(その2)-改訂-」(志布志港港管理者、平成5年8月)より作成

図-3.3(1) 志布志湾の夏季及び冬季における平均大潮期流経図(低潮後3時間)



注) 矢印は流向、数値上段は上層、下段は下層の流速を示す。

○は調査結果を抽出した地点と流速を示す。

出典) 「志布志港港湾計画資料(その2) -改訂-」(志布志港港管理者、平成5年8月)より作成

図-3.3(2) 志布志湾の夏季及び冬季における平均大潮期流経図(高潮後3時間)